

## 設 立 趣 意 書

お金（貨幣）と信用がひとつの主語となり、権限と資格がいまひとつの主語となっている、人間のその意味で貧しい言葉は、強欲と強権が自然としての地球をほしいままに傷つけ、また、人間生活の安寧に欠かすことのできない経済をほしいままに傷つけ、「100年に一度の経済危機」をもたらすことを座視し、容認した。また、強欲と強権が、人間が生まれ、育ち、結婚し、子を産み、育て、死んでいく場所（地域）を残酷に解体し、人間の住めない場所にしていくことを座視し、容認した。そして、その結果、地球は病み、経済は急激に収縮し、派遣労働者、臨時労働者、正職員の順に、企業から人間たちが放逐され、職（収入）と住まいと家族を失った人間たちが今、路頭をさ迷っている。

お金（貨幣）と信用、そして、権限と資格は本来、人間の生活の安寧と社会の発展に欠かすことのできないものである。しかしながら、それらが人間の上に君臨し、強欲と強権として人間を振り回し、社会を突き動かす時、人間は絆（きずな）を失い、分断・孤立し、相互に傷つけあい、殺しあって、生きていかざるを得ないことになる。したがって、人間はその貧しい言葉から解放され、人間と生命（いのち）を主語とする、真に豊かな言葉を自ら紡（つむ）ぎ出していくことなしに、現下の苦境から根本的に解放されることはないはずである。

何故なら、お金は必要なものであるが、それは人間を幸せにする主体でありえないからである。また、例えば教員資格は、それはとても必要なものであるが、それは子どもたちを教育する主体でないからである。すなわち、人間こそが人間を幸せにする主体であり、人間こそが子どもたちを教育する主体であるからである。私たちはそう信じている。

人生につまずき、経済的に破綻し、職と住まいと家族を失い、路上で生活し、時として誰からも看取られることなく、路上で死んでいっている人々が存在する。本当に残酷なことである。そして、人間がもし、そうした悲惨な生活に苦しむ人々に同情する心さえ失っていくとすれば、私たちは人間にどのような幸せも未来も待っていないはずであると考え

る。にもかかわらず、現実には子どもたちに、そのように苦しんでいる路上生活者（ホームレス者）に石を投げさせている人々がいる。お金（貨幣）と信用、権限と資格を主語とする貧しい言葉に囚（とら）われている人々である。

以上の認識と判断にもとづき、私たちは今般、悲惨な路上生活を送っている人々に手を差し伸べ、ひとりでも多くの路上生活者の生命（いのち）を救い、その生活の自立と再生を手助けするために、「職と住まいを失った生活困窮者の自立支援センター『抱樸館福岡』」を建設・開設することを決意した。これは言うまでもなく、ひとりでも多くの路上生活者の生命（いのち）を救うことをその第一義的目的としているが、彼らに手を差し伸べる私たち自身を、そして、そうする私たち

ふれた、真に豊かな人間の言葉をともに紡（つむ）ぎだしていくことを、その目的としている。したがって、それはまた、貧しい言葉に囚（とら）われている人々を、その囚われから解放していくことをその目的としている。すなわち、人間の幸せと未来を切り開いていくことを、その究極の目的としている。

具体的には、社会福祉法人グリーンコープを最終経営責任主体とし、社会福祉法人グリーンコープと認定NPO法人北九州ホームレス支援機構を共同の事業遂行責任主体とし、グリーンコープ連合とグリーンコープ各生協を後方支援責任主体とする、三層の責任主体の下に、「職と住まいを失った生活困窮者の自立支援センター『抱樸館福岡』」を福岡市東区多の津5丁目に建設・開設することを、今般、私たちは決定した。そして、この決定にもとづき、社会福祉法人グリーンコープはその責任において、4億5,000万円余の「抱樸館福岡」建設資金（土地購入代金を含む）を投入し、その建設にすでに着手しており、「抱樸館福岡」は本（10）年4月20日、竣工の運びとなっている。

しかし、ご承知のとおり、この「抱樸館福岡」を基軸に展開する私たちの事業は、それ自体として自立的に、経営できる性格の事業ではない。そのため、こうした事業はこれまで公助がひとりで分掌し、税金を投入し、「施すものとしての福祉」の一環として、実施されてきた。そして共助は、こうした事業から身を一步引き、これに関与することがほとんどなかった。私たちはしかし、共助のそうした躊躇もしくは無責任こそが、人間を主体とする「助け合い」の成長を損ない、その対関係に、公助が投入する税金を主語とする貧しい福祉を跋扈（ばっこ）させてきた元凶のひとつであった、と反省したい。

私たちはその反省の上に、この「抱樸館福岡」を基軸に展開する私たちの事業は、公助に部分的に支えられねばならない側面があるにしても、それは基本的に人間の善意によって支えられる事業にしたいと考えた。理由は第一に、路上生活者の問題をはじめ、多重債務者、高齢者、子育てなどの諸問題を解決する主体は本質的に、人間とその連帯であるはずだからである。すなわち、人間とその連帯を主体とする共助こそが、問題解決の第一の主体であり、税金を主体とする公助は問題解決の第二の主体であるはずだからである。理由の第二は、にもかかわらず、共助の成長が大きく立ち遅れており、共助が未熟であるからである。したがって、当面、共助の成長に重きを置くことが、共助と公助の協働関係を形成していく上で、とても大切であると考えられるからである。

私たちは、以上の意味において、この「抱樸館福岡」を基軸に展開する私たちの事業に必要なランニングコストは基本的に、人々の善意で賄いたいと考えた。そして、そのために、①人々の善意を集約する、②また、その善意の輪を大きく広げていく、ということを経営・使命とする「非営利徹底型一般社団法人 抱樸館を支える会」を設立したいと考えた。

各位のご理解とご協力を心からお願いする次第である。

繰り返しになるが、お金（貨幣）と信用をひとつの主語とし、権限と資格をいまひとつの主語とする、人間のその意味で貧しい言葉は、強欲と強権を跋扈（ばっこ）させ、自然としての地球を破壊し、人間生活の安寧に不可欠な経済を破壊し、そして、人間が生まれ、生き、死んでいく地域を、本当に不毛の地にしてきた。したがって、人間はこれから、こ

の貧しい言葉から解放され、人間と生命（いのち）を主語とする、愛と慈（いつく）しみにあふれた、真に豊かな人間の言葉を自ら新しく紡（つむ）ぎだしていくための、長い長い闘いに歩みだしていくことになるだろう。私たちはそして、本（10）日の「非営利徹底型一般社団法人 抱樸館を支える会」の設立と、来る5月1日に開所を予定される「抱樸館福岡」を基軸に展開される私たちの事業の開始は、その人間の長い長い闘いの、小さいが大切なひとつの始まりを意味していると確信する。

私たちはしたがって、すべての各位が私たちとともに、前を見据え、背筋を伸ばし、ともに歩みつづけてくださることを、心から祈念する。

以上

2010年4月10日

非営利徹底型一般社団法人 抱樸館を支える会 設立時社員一同  
社会福祉法人グリーンコープ  
認定NPO法人北九州ホームレス支援機構  
生活協同組合連合会グリーンコープ連合  
グリーンコープ生協ふくおか  
グリーンコープ生協くまもと  
グリーンコープ生協おおいた  
グリーンコープ生協さが  
グリーンコープ生協（長崎）  
グリーンコープかごしま生協  
グリーンコープ生協みやざき  
グリーンコープやまぐち生協  
グリーンコープ生協ひろしま  
グリーンコープ生協おかやま  
グリーンコープ生協（島根）  
グリーンコープ生協とっとり  
グリーンコープ生協ひょうご  
グリーンコープ生協おおさか